

◆三愛病院季刊誌◆

太陽の光が明るくきらきらと輝くさま。
三愛病院が地域の中で燦燦と輝くことを目指して名づけました。



さん さん
燦 燦

医療法人社団三愛会
三愛病院

H16.10.15 No.1 創刊号

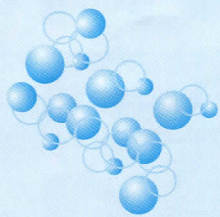
発行元：燦燦編集室



新病院移転後のイメージ図（平成17年10月開院予定）

経営理念

わが三愛病院は
誠実・奉仕・学習
をモットーに安全で
患者さん中心の
高水準の医療を
地域と連携しつつ
提供します。



ごあいさつ



理事長 半澤 一邦

わが国の医療提供において、今、機能を分担して質の高い、無駄のない医療が地域で365日24時間安心して受けられる、いわゆる「地域完結型医療」が強く求められています。当院も地域の中で、ささやかながらその役割を果たせるように現在その体制を整えております。診療所と診療所との連携、病院と診療所との連携、病院と病院との連携。あるいは介護施設・保健との連携システムを築くことが地域住民の皆様の健康管理に効率性と安心を生み、①地域全体の医療・保健・介護の質の向上をもたらすこと。②24時間365日住み慣れた地域で医療を受けられる体制が出来ることが指摘されています。地域の皆様、地域の先生方、コ・メディカル、関係する職種の皆様のご理解を得てその一員となるよう努力したいと考えています。

当三愛病院は今年創立40周年を迎えました。これも一重に地域の先生方や住民の皆様のご支援と先人の努力の賜物であります。深く感謝を申し上げます。この機会に、今後の当院の取り組みをお示しし、ご理解とご指導・ご支援をあらためてお願い申し上げます。

一つには平成17年10月開院予定で新病院建設中であります。新病院では急性期医療、中でも二次救急医療指定病院の役割を果たせるように『救急・外傷センター』を設置し、救急専門医・救急医療習得スタッフが専従して救急を一つの部門として特化して取り組みます。一方、専門外来では最新水準の専門的医療の提供が出来るように専門医・指導医・認定医を中心の医長体制で臨みたいと考えています。また、集中治療室（ICU）を開設して急性期重傷者に集中的に密度の濃い治療を行うとともに、総合リハビリテーション・回復期リハ病棟の承認を受け患者様の早期社会復帰をはかります。

検査体制では0.4T MRI、Multi 4列CT等を導入し画像による診断能力を高めると同時に、その医療画像を電子保存して、検査結果（放射線科医の読影コメント）と併せて紹介患者様の画像を先生方に即座にお届けする配信サービスも検討しております。また紹介検査はお待たせすることなく、24時間体制でご返事ができるようにします。さらに、地域の先生方が自由にご利用できる開放型病床5床を準備して地域の先生方と共同診療をさせていただきたいと考えています。と同時に、ご紹介いただいた患者様は確実に情報提供をして、かかりつけ医の先生のもとで安心して治療が続けられるようにします。また、お住まいの近くで診療が受けられるようにご相談の上、当院から近所の優秀な先生をご紹介し、その先生の下で療養ができるようにしたいと考えています。その際お引き受けいただいた患者様については当院担当医が副主治医的自覚を持って患者様についての連携を密にさせていただきます。

二つには、これらの連携のための『地域医療連携室』を院内にすでに設置し4人体制であたっていますが、この連携室で先生方からご紹介いただいた患者様への対応を迅速に、しかも的確にいたします。また、私どもから患者様をお願いする場や、患者様からのご要望もあり、先生方のお得意な分野も入れさせていただいた地域医療マップの作成も検討させていただいております。

しかしなんといっても当院各科の医師の専門性をさせていただきお互いが顔の見える関係にあることが患者様のためにも重要なことだと考えております。今後先生方、地域の皆様方とご相談しながらより良い地域連携が出来るように、また当院がその役割の一端を担えるよう全職員一丸となって努力いたします。よろしく願いいたします。

ごあいさつ



院長 堀 重昭

本年8月1日、ホワイトロード沿いに三愛病院の新築が始まりました。完成の暁には従来よりはるかに通いやすく、明るく、空間的にもゆとりのある病院が誕生します。機能的には本格的な救急と高水準の専門医療を2本柱としてハード・ソフト両面で質の向上をはかり、患者様にも、地域の先生方にもより信頼される病院になるものと私どもは胸をふくらませております。

しかし、病院や設備が新しくなっても、病院としての基本方針である地域に密着し、地域の皆様に奉仕することには変わりはありません。ただ、病院スタッフだけがどんなに力んでも空まわりに終わるおそれがあります。

三愛病院が真に地域の役に立つ病院となるために、今後とも皆様から遠慮のないご批判とご指導を賜るよう切望します。

新任Drあいさつ



内科 木村 昭哉

長崎大学医学部を卒業し、放射線医学教室に入局。主としてX線診断学を中心に研修してきました。昭和46年からアルメイダ病院に勤務。その後、昭和49年に大分市内で内科医院を開設し地域医療を担当してきました。この4月から内科外来、療養病棟、のつはる診療所（毎週金曜日）を担当しています。よろしくお願い致します。



脳神経外科 河内 正人

6月から脳神経外科部長として赴任いたしました。出身は愛媛県で、熊本大学を昭和55年に卒業し、脳腫瘍、小児神経外科分野での活動を中心に脳血管障害、頭部外傷、脊椎脊髄外科および神経内視鏡の手術をしてきました。これから手術、特に緊急手術ができる体制作りをしていきたいと思っております。是非みなさまのご協力が必要ですので、どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科 吉本 多一郎

4月1日より前任の平井健一先生に代わりまして泌尿器科部長を拝命いたしました。出身は佐賀県です。平成14年に大分医科大学を卒業後、泌尿器科に入局し、大学病院、別府中村病院で研修をさせていただきました。腎、泌尿器科全般と人工透析を中心に診療していきます。大学病院と密な連携をとりながらも、地域に密着した医療を模索していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



整形外科 園田 広典

7月1日より、整形外科で勤務させていただいております。平成7年に大分医科大学（現大分大学医学部）を卒業し、整形外科に入局、九州労災病院、厚生連鶴見病院、福岡整形外科病院で研修させていただき、大学に戻ってからは主に手の外科領域の勉強をさせていただいております。高木部長の下、患者さんが機能を失うことなく治っていただけるように努力していく所存です。よろしくお願い致します。

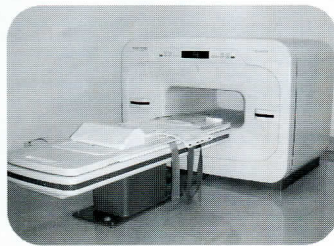
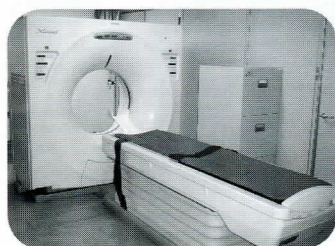
部署紹介①

放射線技術部

放射線技術部長 橋爪 信浩

病院における画像診断の有用性は、近年ますます高くなっています。当院においても昭和45年9月の発足から今日まで、放射線機器・画像診断装置を積極的に導入しています。現在、診療放射線技師は5名で、X線撮影・CT・MRI・各種造影検査・超音波検査等を行っています。また、大分大学医学部放射線科より放射線科医が週3回来られ、読影・血管造影検査（治療）を施行しています。

平成17年10月の病院移転に伴い、放射線機器の更新をいたします。MRI（ダイナミックMRI・diffusion imaging 等可能）・マルチCT（perfusion・3D CTA・フライスルー等可能）、透視台（フラットパネル）・CR・DSA等を導入予定です。医療画像を電子保存し、画像データベースを構築いたします。現在、近隣の医院・病院からのCT・MRI等の検査依頼も積極的にお受け致しております。移転後には、検査結果（フィルム・所見）と併して、JPEGによる医療画像配信サービスを検討しています。医院・病院においても家庭用のパソコンで、患者様の画像データベースの作成が可能かと思われます。何卒、近隣の先生方には、検査依頼のご配慮を、宜しくお願い申し上げます。



●現在の放射線技術部設備●

ヘリカルCT（東芝 Xlead）、0.3T MRI（日立 MPR-3000）、DSA（東芝 AREX-800VC）、一般撮影（東芝）、透視台（島津 shimavision 3500X）、乳房撮影装置（東芝 mammorex）、骨塩定量測定装置（アロカ DCS-900）、超音波診断装置（東芝 power vision 6000、アロカ SSD-2200・SSD-1200）

地域医療連携室開設のお知らせ

6月1日より病診・病病連携をこれまで以上に推進するために『地域医療連携室』を開設いたしました。地域医療連携室では患者様によりよい医療サービスが提供できるように地域の医療機関との連携を可能な限り拡大し、その受付窓口としての役割を担っていきたく思います。書面にてご紹介いただいた患者様については速やかに検査・診察を行い、必ずご紹介いただいた医療機関にお返しいたしております。また、ご紹介いただいた先生方には地域医療連携室よりお返事をFAXにて送付いたしております。地域医療連携室にはMSW2名、看護師1名、情報提供を主とした営業員1名の合計4名でこれらの連携が円滑に行なえるよう日々努力しております。皆様のご指導とご鞭撻のもと地域に根ざした病診・病病連携を作り上げる決意でございます。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

室長 高木 一広



地域医療連携室の主な業務

- ・入院（外来診察）に関する医療機関との窓口の役割《紹介状の取り扱い》
- ・患者様とご家族の満足度を高めるための相談業務
- ・退院時のフォロー、紹介元医療機関への状況連絡
- ・当院の情報発信、季刊誌の発刊など



《担当者》室長 高木 一広（整形外科部長）・田北 佳予子（看護師）
伊田 貴美（MSW）・市川 公美子（MSW）・割石 圭亮
《連絡先》TEL 097-542-7404（直通） FAX 097-586-1139（直通）
《受付時間》平日（土曜日）：午前8時30分～午後5時30分
木曜日：午前8時30分～午後12時30分（祝日および年末・年始は除きます。）

患者さんのための知恵ぶくろ

生活習慣病予防の為の情報（食事による血糖コントロール）

「糖尿病」と聞いてどんなイメージを持っていますか？「食べたいものが食べられない」「食事療法は難しいのでは？」「合併症が怖い」など私も実際多くの患者様からこのような声を聞いています。糖尿病の血糖コントロールで最も大切な事は何よりも食事です。糖尿病の食事とは特別なものを食べる事でもなく、食べてはいけないものもなく重要なのは「量とバランス」です。糖尿病を防ぐための3か条として1：適正なカロリーを守る2：栄養バランスの良い食事（どの食品も偏りなく食べる）3：野菜、きのこ、海藻、こんにゃくの食物繊維は血糖上昇を抑える効果があるので多く取り入れる事です。ある日の当院の昼食は、ご飯、豚肉の生姜焼き、きんぴらごぼう、けんちん汁、りんご、牛乳これで660Kcalです。どうですか？「けっこう食べられるな」と思いませんか。そして糖尿病食は患者さんだけのものではなく、家族の方も健康で長生きできる長寿健康食です。当院では毎週火曜日9：30より糖尿病教室を開催しており、食事療法はもちろん合併症・薬についてなど4回で糖尿病がわかる仕組みです。実際、当院の昼食を食べてもらい目で見てどれくらい食べられるのか、量はどうか感じてもらい調理のポイントをお話しています。皆様の参加をお待ちしています。きっとこの教室に参加すれば何かがわかるはずですよ。

大分県糖尿病療養指導士 療養病棟師長 園田 アキエ
管理栄養士 金木 奈保子



三愛病院までの交通手段

自家用車で来院される場合

大分市内（大分駅）より車で30分
庄内町より車で40分
野津原町より車で10分
大分自動車道光吉ICより車で10分
佐賀関より車で60分
別府より車で60分

公共交通機関（バス）をご利用の方。

下岸バス停下車 徒歩1分
庄内町から
木の上経由 大分県庁前行きをご利用ください。

■ ■ ■ グループ施設 ■ ■ ■

三愛病院
〒870-1151 大分市大字市566-3
TEL 097-541-1311 FAX 097-541-5218

庄内診療所
〒879-5421 大分郡庄内町大字柿原字原280番1
TEL 097-582-3600

のつはる診療所
〒870-1203 大分郡野津原町大字野津原906-1
TEL 097-588-1311

介護老人保健施設 わさだケアセンター
〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
TEL 097-541-1470

わさだ訪問看護ステーション
〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
TEL 097-541-7007（わさだケアセンター内）

大分市在宅介護支援センター わさだ
〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
TEL 097-541-1470（わさだケアセンター内）

特別養護老人ホーム そうだ藤の森
〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL 097-567-8822